



里山再生教室のメンバーが整備する前の竹林の様子



30分ほどの活動で、広い範囲で地面に光が届くようになりました



収穫したタケノコ

# 里山を再生するために



## 里山再生教室

町では昨年度、荒廃した里山を再生し、有効に活用できる人材を育成するため、『みさと里山再生教室』を実施しました。

25名の参加者を迎え、埼玉県寄居林業事務所職員の協力のもと、里山の歴史や荒廃を放置した場合の悪影響などを勉強する座学のほか、現地での樹木の伐採方法などの実習も行いました。

## 活用し、楽しみながら

## 再生・保全活動を!!

里山再生教室の中では、きのこの栽培方法の実習も行われました。きのこの栽培実習は、里山を保全していく中で間伐を行った後にでた木材を活用する方法を学ぶことが目的です。「伐採した木材にドリルで穴を空け、しいたけやなめこの菌を埋め込み、日が当たらないところに置いておく(伏せ込み)とやがておいしいきのこが収穫できる」と講師の寄居林業事務所職員から話がありました。ドリルで穴を開ける方法やその間隔、伏せ込み場所や方法など、参加者はおもしろいきのこを収穫するために熱心に聞いて作業していました。

里山の再生・保全を継続させるには、自然の恵みを楽しみながら行うことが大切です。



## ひとりではできなくても…

森田さんは自身が所有する畑や山の管理に頭を悩ませていたところ、今回の里山再生教室のことを知り参加しました。



森田 實さん

再生教室の最終日に、「うちの畑や山に竹が伸びてしまつて困っているところがある」と声を発したのをきっかけに、後日、里山再生教室で集まったメンバーでの竹林の伐採が実現しました。

森田さんの所有する畑や山は、養蚕のための桑やシイタケの原木に使用する木が植えられていましたが、使わなくなつてからいつの間にか竹が生え、ひとりでは管理することが難しくなっていました。

みんなで竹の伐採を行ったあと、森田さんは「ひとりではとてもできないが、みんなで手入れをするとアツという間にきれいになつて助かった」とうれしそうに話してくれました。

参加者の皆さんも、伐採の合間に掘つたタケノコという竹林からの恵みに喜んでいました。

## これから…

再生教室で集まった皆さんは、これからも自然の恵みを楽しみながら、メンバー間で助け合い、自身が持つ里山の管理・保全を行う活動を行っていく予定です。